

# 12 持続可能な開発のための教育（ESD）

## ・ 持続可能な開発目標（SDGs）

### 1 持続可能な開発のための教育（ESD：Education for Sustainable Development）とは

今、世界には環境、貧困、人権、開発といった様々な地球規模の問題がある。これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。

ESDの実施には特に次の二つの観点が必要である。

- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

環境、平和や人権等のESDの対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要である。



### 2 持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは

2015年9月にニューヨーク国連本部において開催された「国連持続可能な開発サミット」において、150を超える加盟国首脳に参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。この中で、人間、地球及び繁栄のための行動計画として掲げられた目標が、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」である。現在、2030年を期限に「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に総合的に取り組んでいるところである。

○ SDGsの特徴

- ・ 普遍性…先進国を含め、全ての国が行動
- ・ 包摂性…人間の安全保障の理念を反映し、「誰一人取り残さない」
- ・ 参画型…すべてのステークホルダーが役割を
- ・ 総合性…社会・経済・環境に総合的に取り組む
- ・ 透明性…定期的にフォローアップ



